

第3回 大阪市イノベーション促進評議会 会議要旨

1 日 時 平成 26 年 3 月 26 日（水） 午前 9 時 30 分から午前 11 時 00 分

2 場 所 大阪イノベーションハブ（WEB 会議）

3 出席者

（委員）

校條委員長、松本委員、外村委員、吉原委員

（都市計画局）

吉川理事、山口部長、折原課長ほか

4 議 題

(1) 平成 25 年度事業について、平成 26 年度事業の方向性について

5 議事要旨

意見等の概要は以下のとおり。

(1) 平成 25 年度の事業実施状況、成果について

- ・非常にアクティビティレベルが高く、質量ともに中身のあるものになった。
- ・情報発信も非常に頑張っていると思うが、フェイスブックの「いいね」が少ない点と英語でのイベント告知が世界に響いていない点が改善を要する。成果を国内外にどのように伝えていくか、またメディアが、この取組・成果を好意的に取り上げたような事例を情報発信することも重要。プロジェクト創出についても、もっと力を入れて「見える化」する。プロジェクトそのものだけでなく、それに取り組む人にフォーカスを当てて情報発信するのも良い。Hack Osaka とか、Osaka Innovation Hub とかブランド的にもすごく交錯していてこれは一つ課題。
- ・オープンイノベーションとかイノベーションエクステンジに参加している企業が期待していたよりもかなり少ないのは残念。関西にはイノベーションとか無形の資産について造詣が深い会社が多くあるのでそこを開拓して、企業におけるオープンイノベーションの動きを一層加速してほしい。シャープやパナソニックといった大企業との連携が見られたのは大変良かった。まだ成功していなくてもプロジェクトの中で一つでも二つでも有望なケースがあることが見えれば、興味を持ってパナソニック、シャープに続く企業がここにくるかもしれない。あるいは、あまりものづくりにこだわり過ぎずに、もともとは技術会社じゃなくてアイデア勝負みたいな会社も入れたような集まりでお互いを刺激するようなことをやった方が、結果的に大企業も目が覚めるかもしれない。企業の人材が大阪イノベーションハブに来るこ

とによって活性化して何か新しいものを作り、ベンチャーを立ち上げるなどの動きにつながるのも良い。

- ・世間が注目するところは結果としてプロジェクト創出になると思うが、一年目はうまくいったということで逆にあまりあれもこれもとやらずにフォーカスをあててお互いが相乗効果を生み出すような形でプロセスにより一層改善を加えてもらってプロジェクト創出にフォーカスをあててほしい。
- ・この先大阪市ばかりが頑張ってる事業づくりをしてもこれは地域の経済発展にならないので、今日的な発想としてはスーパープロデューサーあるいはハッカーズクラブに所属しているような人たちがどんどん強くなって、いろんな事業をプロデュースしてあちこちの会社を引っ張ってくるような活動がおきてくるのが理想だと思う。

(2) 平成 26 年度事業の方向性について

- ・来年に向けての方向性として、大きく言うと継続か発展か、グローバルに繋がっていくか、集中してプロジェクト創出を図るかということがある。
- ・いろんな意見がある中で、限られた資源を使い、3カ年事業の2年目として、大阪市として3カ年の終了後の先に、何をめざすのかを模索する26年度になるべきだと思う。
- ・一番重要なのはプロジェクトを創出したかということだろう。一体どれだけの経済効果を生んでいるのかと。それを判断基準にしてプライオリティを考えるのが良い。海外との関係も然り。
- ・ただ、プロジェクト創出は、1~2年で立ち上がるものは非常に少ないと思う。シリコンバレーでは創業してから上場するまで平均して8~9年なので、2年目ではそれは期待できない。とすれば、例えばプロジェクト創出したとき、今はまだよちよち歩きだが将来はこれだけの経済効果があるという言い方や、前に進んだこと自体を成果として、例えば日本に来たということも一つのきっかけになり、そこから何か生まれることもあるので、そういうこともカウントに入れるなど、いろんな形で目に見える成果の方がアカウンタビリティを明確にする上で適している。
- ・「グローバル」については、関西・大阪の中で閉じて人材、アイデア、技術、資金すべてを大阪でという地域ごとの産業振興の考え方ではもう将来立ちゆかないだろうということで、イノベーションゲートウェイという、技術・人材・お金が通り過ぎてもいい、だけど大阪を通り過ぎることによっていろんなものが立ち上がるというのが基本発想なので、必ずしも海外ばかりではなくて、日本中の人材が集まるといような国内も視野に入れた発想にしたらいかかと思う。
- ・オープンイノベーションを推進している立場としては、特に海外との提携関係を結びたい。ここを拠点にして海外のいろんなところに我々が持っているシーズをうまく発信できる、実質的なことができる仕組み・場を作っただけであればここでやりたいと思っている。
- ・海外を経由した情報発信をしてそこから日本企業を動かしていくという手もある。

具体的には、海外の企業が次々と大阪イノベーションハブに来て何かを生み出しているという話を日本で報道して、日本の会社があわてて参加するという流れが作ればいい。

- ・大阪市が深堀のために自らのリソースを割いてやらなくてはいけない部分と、エコシステムの中の誰か、例えばコミュニティのリーダー等にお任せできる部分とに仕分けして、後者にあたるものについてはなるべく省力化し、大阪市のエネルギーは別で力を入れなくてはならないところにかけていくべきだと思う。
- ・ただ、手放して糸の切れた凧みたいに飛んでしまったら、またホールドするとか、かなり臨機応変な動きが必要で、そこが大阪市としてはチャレンジのところがかなという印象を持つ。
- ・事務局には、26年度の計画として、ちゃんとプライオリティをつけて目標をはっきりと謳って、パフォーマンスメジャメント、目標設定とアウトカムを作っていたきたい。

6 会議資料

- (1) 資料1 平成25年度事業に係る目標設定とアウトカム（成果）について
- (2) 資料2 平成25年度グローバルイノベーション創出支援事業 実施状況・成果
- (3) 資料3 26年度事業の方向性について